

静岡経済研究所

調査月報

[特別企画調査]

カーボンニュートラル

県内企業はどう捉えているか

【トップリーダー インタビュー】

株式会社 エンチャー

代表取締役社長 遠藤 秀男 氏

業界調査

ドライバー不足解消に注力する中小運送事業者

広がるPIF

ポジティブ・インパクト・ファイナンス
県内企業の取組み事例

静岡経済ゼミナール

静岡文化芸術大学デザイン学部教授 伊豆 裕一 氏

次代への扉を開く創造企業

株式会社 クシタニ

経営茶房

小和田哲男の
経済で読み解く戦国時代

＜省エネから始めた環境経営の事例＞ (株)ヤマト製作所（二輪車部品製造業）

照明のLED化や生産設備の動力源の電化に注力し、コストとCO₂排出量の削減を両立

二輪車や汎用機、船外機などのエアクリーナーやオイルクリーナーの製造を手掛ける(株)ヤマト製作所（浜松市浜北区）。同社では「省エネ活動の推進は、無駄なロスやコストの削減に直結する」(頼母木幸彦 社長)との考えから、環境省が策定した「エコアクション21」を2006年7月に認証取得。同ガイドラインに則り、「CO₂排出量や廃棄物、水使用量等の削減」および「環境経営の継続的改善」などを柱とした環境経営方針を策定し、全社員で「新規製品で環境に配慮した製品構造の提案」や「工程内不良の削減」といった30以上に及ぶ活動を実施。また、自社の環境経営の取組み状況を取りまとめた「環境経営レポート」を自社ホームページ上で公開し、社内外へ情報を発信している（写真1）。

同社では脱炭素化に向けて、2018年9月から19年1月にかけて、全工場・事務所の電灯や水銀灯をすべてLEDに切り替えた。また、射出成形機を油圧式から電動式に切り替えたり、組立ドライバーを電動化するなど、生産設備の省エネ化も並行して推進。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、得意先の生産調整による工場の稼働停止という特殊要因が重なったこともあるが、2020年度（2019年11月～20年10月期）のCO₂排出量は前年度比△18.0%と大幅に低減、原単位（売上当たりの排出量）でも同△8.8%減の削減量を達成している。

一方、将来的に二輪車の電動化が進展した場合、主力製品の受注量が大幅に減少する可能性を視野に入れて動いている。具体的には、2020年9月に浜松医療センターと共同で、医療従事者をウイルス感染から防ぐ防護ヘルメットの接続器具（アタッチメント）を開発したり、手首骨折によるインプラント手術の際にレントゲンに写る樹脂製の型取り具（テンプレート）を開発、21年6月に販売を開始するなど、医療や農業といった新分野開拓を急ぐ。



▲写真1 同社が作成・公表する「環境経営レポート」